

平成23年度研究調査報告

1. 修学旅行の実施状況調査

2. 修学旅行の課題調査 『感性をはぐくむ修学旅行』の 取り組みについて

～ 関東・東海・近畿 地方集計比較 ～

【感性をはぐくむ修学旅行の展開】

平成24年3月

公益財団法人全国修学旅行研究協会

目 次

調査研究のねらい	1
調査概況	2
1 調査の対象		
2 調査の時期		
3 調査内容		
4 回答状況		
実施概況	3
1 実施時期		
2 実施日数		
3 実施方面		
4 地区別費用区分	5
5 方面別費用区分(関東地区)		
6 方面別費用平均		
7 不参加生徒数		
8 体験学習(近畿地区)		
9 広島コースの利用について(関東地区)	6
(1) 広島まで利用可能となりますが利用しますか		
10 東日本大震災の影響について	7
(1) 予定方面等の変更		
(2) 変更状況		
感性をはぐくむ修学旅行の取り組みについて	8
1 修学旅行で最も重視した活動はどのようなことですか		
2 どのような直接体験活動が組み込まれたか		
3 修学旅行実施に向けて生徒はどのように関わりを持ちましたか		
4 事後の学習や活動はどのように行われましたか	10
5 修学旅行を実施するにあたり、JRや旅行会社等に 要望がありましたらご記入ください		
まとめ	21

調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事『旅行・集団宿泊的行事』に位置づけられる。学習指導要領によれば特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

また、旅行・集団宿泊的行事の内容は、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

来年度からの新学習児童要領の全面実施にあたり、特別活動の目標達成にあたっては、ねらいや育てたい資質・能力を明確にし、体験活動を充実させていくこと、各教科等との関連を図った指導を実践する事としている。

子どもの現状をみると、知識・技能の習得に比べ「知識・技能を実生活の場に活用する力や表現する力など課題がある」と言われているが、これらの課題克服に向け修学旅行の果たす役割は大きな意味を持っている。

今年度はこれらをふまえ、大切な行事をより一層充実させるために、昨年度に続き生徒の感性に訴える修学旅行をテーマに調査集計する。「感動ある修学旅行の展開」を図るためには、生徒の感性に働きかける体験活動は欠かすことのできない大切なものである。

多くの学校が修学旅行の中で体験活動を取り入れているが、生徒の感性に働きかけ、感動や共感を顕在化していく価値を付加することでより充実した修学旅行の実現が考えられる。

本調査においては関東・東海・近畿の三地区公立中学校における修学旅行の実施状況(継続調査)と、「感性をはぐくむ修学旅行への取り組み(課題調査)」を通して、各学校が生徒の感性にいかに関わりかけ、狙いや目標に迫ろうとしているのか最も重視した活動や直接体験活動について調査する。

具体的には学校が目指す修学旅行に向けて訪問地で最も重視している活動や、事前・事後において生徒がどのような取り組み(活動)をしているのか調査する事とする。

「感性をはぐくむ修学旅行」に向けて実践の一端が、回答から各学校のヒントとなることを願っている。

今年度は3月11日の東日本大震災の影響を受け、関東地区の学校においても、当初の予定を変更した学校があり、東海地区、近畿地区においても相当数の変更が見られた。これらについての実態を把握すべく調査を実施する。

昨年度の実施方面と東日本大震災後(約2ヶ月後から実施)の実施方面の変更状況等を正確に把握する事とした。

関東地区では東北方面の修学旅行の行き先、日程等の変更が57校に及んだ。特に会津方面から信州方面への変更が顕著であった。

東海地区、近畿地区の場合は関東方面の予定が大幅に減少し関西以西への実施となった学校が多く見られた。

関東・東海・近畿三地区公立中学校の主な訪問地は下記のとおり。

		21年度	22年度	23年度
*関東地区	関西(京都・奈良)方面へ	85%	88%	89%
*東海地区	関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ	82%	80%	25%
*近畿地区	関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ	36%	35%	6%
	沖縄方面へ	30%	29%	34%
	九州方面へ	14%	14%	35%

過去3年間の主な訪問地から23年度はこれまでと異なる傾向がわかる。

II 調査概況(平成23年度修学旅行の実施状況調査)

- 1 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
 東海3県(三重・岐阜・愛知)の公立中学校
 ただし愛知県は県中学校長会調査データを使用
 近畿2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)
- 2 調査の時期 平成23年7月～11月
- 3 調査内容 (1)平成23年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
 時期・日数・旅行方面・旅行費用・不参加生徒数
 (2)関西方面連合体の広島コース利用について
 (3)東日本震災の影響について
 (4)感性をはぐくむ修学旅行に向けての取り組みについて

4 回答状況

区分	関東	東海	近畿	合計
調査校数	1,374	767	1,045	3,186
回答校数	1,208	715	986	2,909
回答率	87.9%	93.2%	94.4%	91.3%

(関東地区)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
調査校数	232	166	171	423	382	1,374
回答校数	143	161	102	419	381	1,206
回答率	61.6%	97.0%	59.6%	99.1%	99.7%	87.8%

(東海地区)

	三重県	岐阜県	愛知県	合計
調査校数	165	193	409	767
回答校数	155	151	409	715
回答率	93.9%	78.2%	100.0%	93.2%

(近畿地区)

	滋賀県	京都府	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山県	合計
調査校数	101	101	109	335	267	132	1,045
回答校数	100	99	99	334	255	99	986
回答率	99.0%	98.0%	90.8%	99.7%	95.5%	75.0%	94.4%

Ⅲ 実施概況

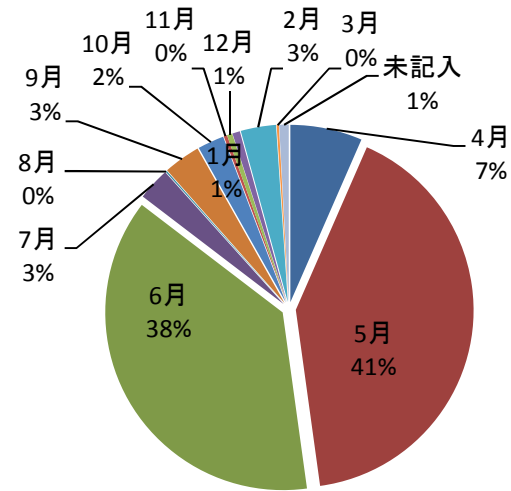
1 実施時期

	校				愛知
	関東	東海	近畿	合計	
4月	34	12	117	163	()
5月	477	120	434	1,031	123
6月	514	115	309	938	235
7月	63	2	9	74	5
8月	1	1	1	3	
9月	30	29	25	84	()
10月	2	20	38	60	()
11月	0	1	7	8	()
12月	12	0	0	12	
1月	14	0	3	17	
2月	51	1	28	80	
3月	1	2	2	5	
未記入	9	0	13	22	
合計	1,208	303	986	2,497	409

※東海地区は三重県、岐阜県 ()合計=46

※愛知県は参考資料:4、9、10、11月の合計が46校

実施時期



2 実施日数

	校			
	関東	東海	近畿	合計
2日間	2			2
3日間	1,201	713	984	2,898
4日間	1	2	2	5
8日間	1			1
未記入	3			3
合計	1,208	715	986	2,909

- ・実施時期については78.9%の中学校が5～6月に実施
昨年度の82%より若干の減少が見られた。
- ・昨年度より9月～10月実施が大幅に増えたが、東日本
大震災の影響で実施時期を遅らせての実施が見られた。
- ・実施日数は99%強の学校が3日間となっている。

3 実施方面
 <平成22年度>

	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			26	26	0.9%
東北・会津・日光	64			64	2.2%
関東・伊豆・箱根	3	554	347	904	31.0%
北陸・信州・信越	62	21	158	241	8.3%
関西	1,074	18	4	1,096	37.6%
中国・四国	11	50	21	82	2.8%
九州		16	140	156	5.4%
沖縄		28	286	314	10.8%
海外				0	0.0%
その他	4	10	1	15	0.5%
未記入	9		6	15	0.5%
合計	1,227	697	989	2,913	

(関東地区)

- ・関東地区は88%の学校が関西方面実施 (広島と関西が11校ある)
- ・信州・会津東北方面は千葉県の中学校が実施 農業体験や自然スポーツ体験を実施

(東海地区)

- ・東海地区は東京を中心に都心近郊(79.5%)での 企業訪問や職業体験などキャリア教育を実施
- ・国会議事堂、皇居、東京ディズニーランド等の見学

(近畿地区)

- ・関東方面(35.1%)と沖縄方面(28.9%)が他を圧倒する。続いて、信州・北陸・信越と九州方面となる
- ・関東・東海地区に比べて農業体験や自然・スポーツ体験が多い

<平成23年度>

	関東	東海	近畿	合計	割合
北海道			27	27	0.9%
東北・会津・日光	8			8	0.3%
関東・伊豆・箱根	1	175	61	237	8.2%
北陸・信州・信越	113	17	157	287	9.9%
関西	1,065	306	0	1,371	47.2%
中国・四国	11	154	46	211	7.3%
九州	0	29	345	374	12.9%
沖縄	0		339	339	11.7%
海外	1		2	3	0.1%
その他	5	34	11	50	1.7%
合計	1,204	715	988	2,907	

(関東地区)

- ・89.4%が関西方面(広島含む)となっている。 昨年の88.4%より微増となる。
- ・東北、会津日光方面が大幅減となる。
 東北:21校(22年度) ⇒ 6校(23年度)
 会津日光:43校(22年度) ⇒ 2校(23年度)
- ・信州方面は大幅増となる。
 60校(22年度) ⇒ 107校(23年度)
- ・広島は11校で昨年度と同数である。

(東海地区)

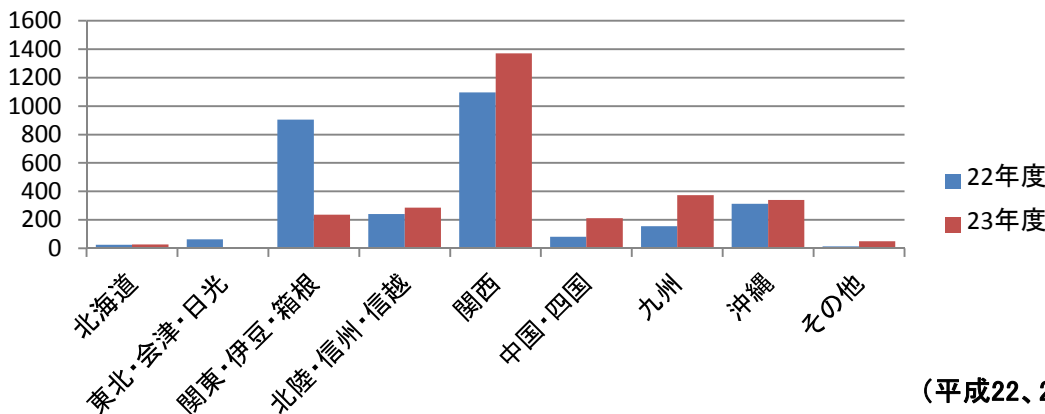
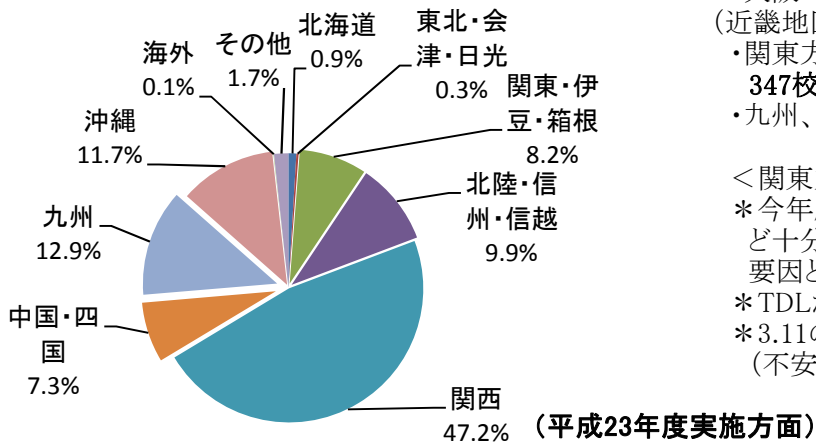
- ・関東方面が震災の影響から激減する
 554校(22年度) ⇒ 175校(23年度)
- ・中国・四国方面が3倍増となる
 50校(22年度) ⇒ 154校(23年度)
- ・大阪・神戸方面が大幅増となる

(近畿地区)

- ・関東方面が震災の影響で激減する
 347校(22年度) ⇒ 61校(23年度)・18%
- ・九州、沖縄方面が大幅に増加する

<関東方面の減少の主な要因>

- *今年度4月当初関東方面では、企業訪問・職場体験など十分準備できないといった企業も多く見られ、減少の要因となる
- *TDLが当初閉鎖されたことも要因
- *3.11の震災後、間もなくの実施に保護者の考え方(不安)等に起因するところがある



4 地区別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

	関東	東海	近畿	合計	割合
20,000～30,000		2		2	0.1%
30,000～40,000	44	22		66	4.1%
40,000～50,000	157	269		426	26.3%
50,000～60,000	489	103		592	36.6%
60,000～70,000	487	13		500	30.9%
70,000～					
未記入	31			31	1.9%
合計	1,208	409		1,617	

5 方面別旅行費用(関東地区)

	東北	会津日光	伊豆箱根	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	未記入	その他	合計
30,000～39,999	1			37	3	3					44
40,000～49,999	3	1	1	56	2	91				3	157
50,000～59,999	2	1		12	2	465	3		2	2	489
60,000～69,999						378	2				380
70,000～79,999						92	8				100
80,000～						4	2	1			7
未記入				2		27			2		31
合計	6	2	1	107	7	1,060	15	1	4	5	1,208

6 方面別費用平均

	円			関東地区		近畿地区	
	関東	東海	近畿	最高額	最低額	最高額	最低額
北海道・東北	46,145		69,962	54,000	37,870	93,117	58,090
東北・会津・日光	51,448			55,000	47,895		
関東・伊豆・箱根	43,000		58,576	43,000	43,000	81,235	34,568
北陸・信州・信越	42,039		34,577	59,342	30,000	45,750	23,404
関西	58,920			85,010	35,480		
中国・四国	74,275		49,702	85,000	62,000	60,375	34,059
九州			57,964			78,283	38,883
沖縄			66,070			100,601	51,498
海外			143,418	-	-	196,479	90,357
その他	48,623		40,963	53,332	45,000	54,949	27,558
平均額	52,064	57,665	59,467	63,526	41,178	68,952	44,802

関東地区平均: 52,064円
東海地区平均: 57,665円
近畿地区平均: 59,467円

・全体の平均額は56,399円である。

*東海地区は三重県・岐阜県の平均額

7-1 不参加生徒数の有無(学校数)・関東地区

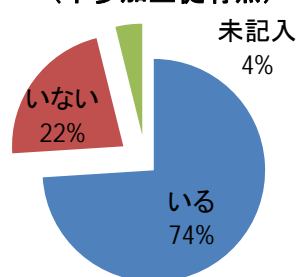
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
いる	105	115	67	298	309	894	74.0%
いない	34	44	31	98	60	267	22.1%
未記入	4	2	4	24	13	47	3.9%
合計	143	161	102	420	382	1,208	

・不参加生徒のいる学校は74%となっている。

主な理由としては

- 1.不登校(65%)
- 2.疾病(約10%)
- 3.経済的理由(約6%)
- 4.その他
等である。

(不参加生徒有無)



7-2 学年生徒数と不参加割合(関東地区)

人

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
学年生徒数	17,294	18,159	10,864	61,525	50,657	158,499
不参加人数	326	444	179	1,389	1,274	3,612
不参加割合	1.9%	2.4%	1.6%	2.3%	2.5%	2.3%

・不参加生徒のいる学校数(894校)は全学校の約74%となる。昨年より約3%の増理由としては不登校によるものが多く、続いて疾病、経済的理由などがあげられる。

7-3不参加生徒数・割合(東海地区)

人

	三重	%	岐阜	%	備考
参加生徒数	16,265		15,369		
不参加人数	204	1.3%	389	2.5%	
内 経済的理由	6	0.0%	14	0.1%	

・不参加生徒数の割合:1.9%

8 平成23年度体験学習を取り入れましたか(近畿地区)

校

	滋賀	京都	奈良	大阪	兵庫	和歌山	総計
取り入れた	88	81	88	310	209	56	832
取り入れなかった	8	10	8	14	35	26	101
今後も取り入れない	2	3	0	2	6	11	24
空白	2	5	3	9	5	6	30
総計	100	99	99	335	255	99	987

9 関西方面連合体の広島コースの利用について(関東地区)

9-1 広島まで利用可能となりますが、貴校は

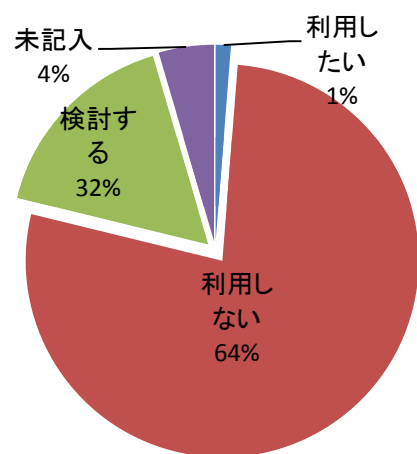
校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
利用したい	1	8	0	2	4	15
利用しない	101	107	89	318	322	937
検討する	29	45	11	69	47	201
未記入	12	1	2	31	9	55

・25年度から広島コースが可能となったが、利用したいかどうかを問う。15校がはっきり利用したいと答えており、検討すると答えた学校も 201校にのぼった。
1,153校中201校(17.4%)の学校が検討したいとしている

・今年度11校が広島方面実施となり、可能となった時には今の時点で15校の学校の実施が見込める。
* 検討すると答えた学校についても実施が見込める学校が考えられる。

* 連合体の広島コースが平成25年度より可能となりこれまで長年に亘り要望してきたことが実現する事となった。
今後学校の利用状況を見ながら、JRとの意見交換等実施していきたい。



(広島まで利用可能となった場合)

10 東日本大震災の影響について

10-1 予定方面等の変更

校

	関東	東海	近畿	合計
はい(変更した)	57	173	306	536
いいえ(変更しない)	1113	133	665	1,911
検討中				
未記入	38		16	54

・予定方面の変更について

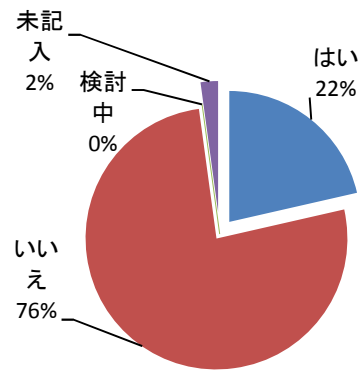
関東地区:57校 57/1,170校(4.9%)

東海地区:173校 173/306校(56.5%)

近畿地区:306校 306/971校(31.5%)

・関東方面を目指した東海地区、近畿地区の変更が多く見られた

(予定方面変更について)



10-2 変更後の行先(関東)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
関西方面	1				5	6
信州方面			1		46	47
秋田・山形方面						
その他				1	3	4

※千葉県:(会津・日光方面⇒信州方面へ)が多く見られた

※その他:伊豆大島・山梨県・富士方面・神戸から京都

10-3 変更状況について(東海)

校(%)

	三重	%	岐阜	%	備考
実施時期変更	55	35.5	30	19.9	
行き先変更	98	63.2	61	40.4	
その他	24	15.5	15	9.9	

※時期変更:85校(27.8%)

※行き先変更:159校(52.0%)

10-4 方面別変更状況(近畿)

校

	北海道 東北	関東 伊豆	信州 関東	中国 四国	九州	沖縄	海外	その他
計画通り実施	16	39	150	26	147	282	2	9
計画を変更	0	296	9	0	0	0	0	0
総計	16	335	159	26	147	282	2	9
変更比率	0%	88%	6%	0%	0%	0%	0%	0%

※方面変更:関東・伊豆方面が296校(88%)変更となる

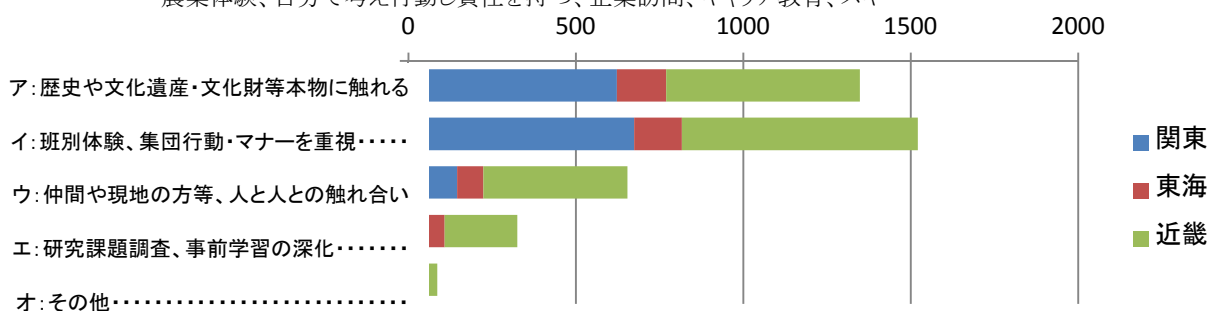
IV 感性をはぐくむ修学旅行についての取り組み

1 訪問地で最も重視した活動はどのようなことですか(複数回答) 校

	関東	東海	近畿	合計
ア: 歴史や文化遺産・文化財等本物に触れる	623	147	578	1,348
イ: 班別体験、集団行動・マナーを重視	674	143	704	1,521
ウ: 仲間や現地の方等、人と人とのふれ合い	146	78	430	654
エ: 研究課題調査、事前学習の深化	41	67	217	325
オ: その他	12	17	57	86

※東海地区は三重県、岐阜県

※その他: 法話のお礼に合唱、環境エコ活動、アイウが活動計画にバランスよく入る活動
農業体験、自分で考え行動し責任を持つ、企業訪問、キャリア教育、スキー



最も重視した内容

(関東地区)

- ・昨年度はアがイを圧倒的に上回っていたので、今年度の傾向としてグループ別の体験、マナーへの傾向が昨年より増加している事が分かる。
- ・ウの「人と人のふれ合いや感性をはぐくむ」事については昨年度より若干減少している。
千葉県がウが多いのは信州方面での民泊、農業体験などでの影響が大きいものと考えられる。

(東海地区)

- ・「ア文化財、本物に触れる」と「イ班別体験、集団のマナー」の項目の回答が圧倒的に多い
- ・今年度はキャリア学習の減少(震災後の影響)が見られた
- ・アの文化財等本物に触れる活動が大幅に増加する

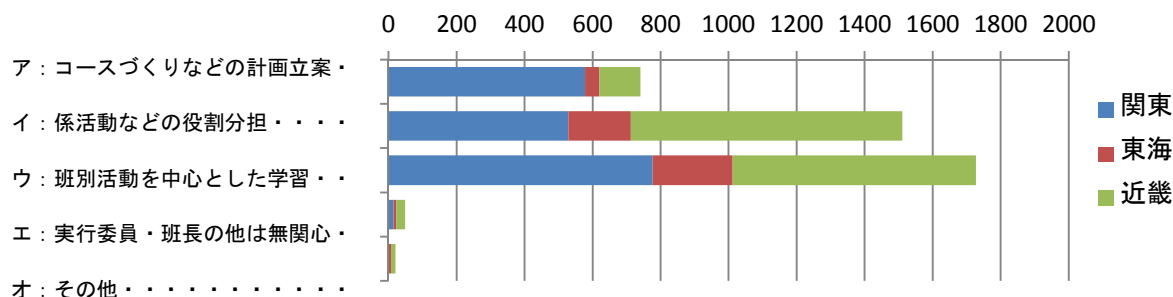
(近畿地区)

- ・イの班別体験・集団のマナーについての活動が他地区より割合が大である
- ・エの研究調査活動や学習の深化についても他地区より割合が大きい
- ・訪問地が九州・沖縄方面が圧倒的に多く自然・スポーツ体験や農業体験が他地区より多く実施
班別体験や現地の方とのふれ合いが多くなっている

3 修学旅行の実施に向けて生徒はどのような関わりを持ちましたか 校

	関東	東海	近畿	合計
ア:コースづくりなどの計画立案	578	42	121	741
イ:係活動などの役割分担	529	183	799	1,511
ウ:班別活動を中心とした学習	776	236	715	1,727
エ:実行委員や班長の他は関わってない	15	7	27	49
オ:その他	1	6	13	20

※東海地区は三重県、岐阜県



(関東地区)

- ・ウの「班別活動を中心としての学習」が最も多く、これが旅行中の班別行動に直接結びついているものと思われる。
- ・エの「実行委員、班長以外はかかわりが少ない」というのは各県ともにわずかであった。
- ・コース作りから計画・立案等全面にかかわるのが578校[578校/1,206校]48%となっている。

(東海地区)

- ・「班別活動を中心としての学習」が最も多く、旅行中の班別活動に直接結びつけた学習に重点を置いている
- ・計画・立案の段階では代表を中心としての活動が多く、計画できたものをもとにして役割分担をして活動する

(近畿地区)

- ・計画・立案の段階での関わりよりも、計画できたものをもとにし役割分担を中心とした活動に主眼が置かれている
- ・訪問地での班活動を中心とした学習を事前学習では行われている

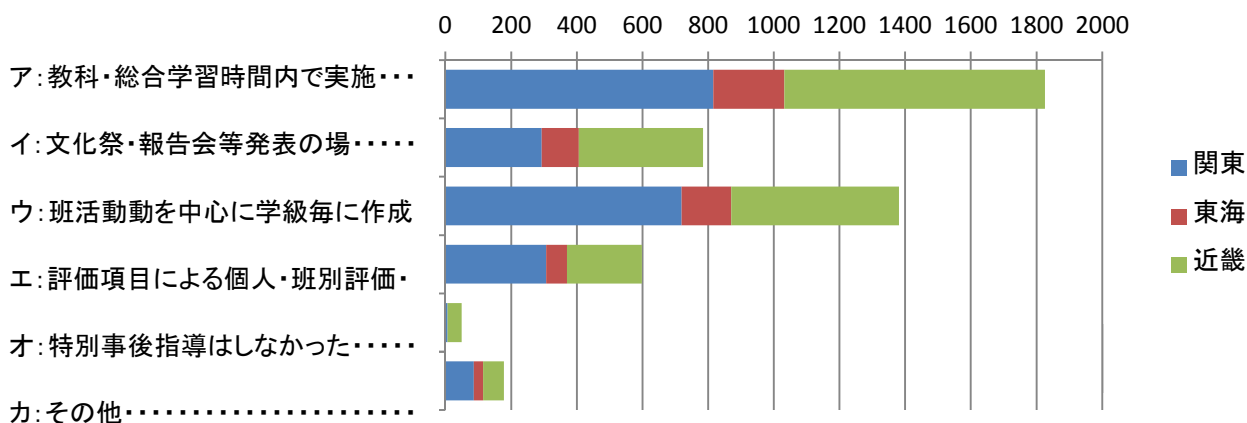
4 事後の学習や活動はどのように行われましたか 校

	関東	東海	近畿	合計
ア:教科・総合学習時間内で実施	816	216	794	1,826
イ:文化祭・報告会等発表の場	293	113	378	784
ウ:班活動動を中心に学級毎に作成	719	151	511	1,381
エ:評価項目による個人・班別評価	307	63	228	598
オ:特別事後指導はしなかった	6	0	43	49
カ:その他	86	29	63	178

※東海地区は三重県、岐阜県

- ・教科や総合学習の時間を利用して行われている。総合学習の時間が縮減されていく中、今後ますます教科関との連携を図りながら活動する事が望まれる
- ・班活動を中心にして新聞づくりや文化祭での発表に向けての活動など行われている
- ・班行動中心としてのスタイルが主流となり、事前学習、事後学習も班を中心とした活動が多く実施される
- ・評価項目を設けて実施している学校は 関東(25%)、東海(21%)、近畿(23%)となっている

(事後学習の内容)



4-4 その他の活動(抜粋)

レポート作成等	プレゼン方法等	その他
班毎に報告書作成した	教科(美術・国語)で思い出帳づくりや新聞作りをしている。	
個人でのレポートづくり	各自が、課題について学習し、ポートフォリオ形式でまとめ、発表の機会を設定。	
作文や俳句に体験をまとめた	体験した内容を個別にホワイトブックにまとめ、作成した。	
レポートを作成し、文化祭に展示	学習ファイルとして旅の記録をまとめた資料を個人で作成している。	
修学旅行記をHP形式で作成		
個人新聞、写真コンテ		
修学旅行新聞作成	チームごとのプレゼンを行った。	英語でインタビュー
修学旅行感想文集の作成	全校プレゼン	学年便りに感想
思い出のアルバム作成	学年集会	地元交流
旅行記作成	係り活動の評価を集会で発表した。	

- ・「教科・総合的な学習の時間を活用して事前・事後学習を実施する」と言う学校が最も多く見られる。次いで、「班行動を中心に学級に任せた形での事後学習」が多い。この2つの方法が他を圧倒する。
- ・「評価項目による個人、班別の評価」や「文化祭、報告会等の発表の場を設定して事後学習、活動に結び付けている」学校も多く見られる。
- ・「その他の活動」として、文化祭での展示したり、ホームページ作成したり、学習ファイルとしてまとめたり、全校プレゼンテーションを行ったりといった工夫もみられる。

2 組み込んだ直接体験活動について

関東地区

ア 歴史や文化遺産等に触れる

法話体験、ものづくり体験

タクシー班別研修

和菓子づくり

能・狂言鑑賞

文化遺産、文化財を訪問する活動

扇子づくり

清水焼絵付け体験

友禅染による扇子づくりを行った。

舞楽や京舞の見学、鑑賞(護王神社)

文化財等を直接目にし、ガイドさんの話を聞くことで教科書では学べない内容を学習できた。

歴史・文化遺産を中心に位置づけ、総合の学習の一環として取り組み、茶道等を行った。

寺、仏像見学。友禅染体験。

北野天満宮での学力向上祈祷体験

自転車で、班別に遺跡等を見学して歩く。

班ごとにテーマに沿った見学地の選定、事前学習、現地で直接見、感じる体験活動

琴、茶

法隆寺、清水寺、三十三間堂の見学。他は班別活動による見学

仏像の見方を事前に学習し、見学した中から1つ選び、まとめる。

クラス別奈良研修、班別京都研修、能楽研修

京都・奈良の文化遺産見学 日本の伝統芸能である能の鑑賞及び体験

漆器加飾、京扇子の絵付け、清水焼絵付け、西陣織体験から選択

写経体験

大江能楽堂における能楽・狂言の鑑賞と体験

東大寺、平等院、清水寺、三十三間堂をクラスごとに見学

京都市内のタクシー研修で、班毎に京都の社寺を見学

知識を体験に変える

添乗員による事前学習

宿坊宿泊、座禅、僧侶の説話

京都の班行動をシルバーガイドさんと共に行う

本校では、1年で地域文化、2年で日本文化3年で日本文化発信をテーマとしている

象眼

班別行動、お菓子作り、保津川下り、抹茶、提灯絵付け

文化遺産、文化財を見学し、触れることで歴史を知る活動。

舞妓さんとの交流 3日目神戸震災体験者との交流

京都のお寺での集会活動

民話ミュージカル鑑賞

着物を着て散策

防災未来センター見学

念珠作り

ペンションオーナー体験

大仏殿、平城宮跡等の見学

琵琶湖ディナークルーズ

松本市内の散策・文化

文化遺産や国宝見学、郷土玩具づくり

青蓮院体験学習等

ちんどん屋体験

トロッコ列車乗車

ガラス細工

鴨川散策

うるし塗り

公共交通機関を利用した班別自由見学のコース作成と実践

班別行動でそれぞれが体験したい、見たいものに関して、直接連絡をとり、実施した。

各自がテーマを設定して歴史や文化遺産の見学などの活動をした

朗読ボランティアによる講話

東大寺の案内を寺関係者に依頼した

同志社大学との合唱交流

教科書等の授業で扱ったものを見学コースに組み込み本物に触れられるようにする。

奈良の寺院見学、ガイドさん、同行の京都の史跡見学
職場訪問(伝統工業等に係る)
興福寺ナイトハイク、ライトアップされた興福寺を見ることにより悠久の時の流れを感じ取る体験
マナー学習の機会
地域の方との対話活動
古い町並みへの班別行動。伝統文化にかかわるものづくり体験
飛騨の里体験学習(さるぼぼ、菱形千鳥、キャンドル、フォトフレーム)
真の国際人を目指し、一年次より続けている地域(千葉・東京)と日本の歴史文化を知る学習の一環としての活動。
ラフティング
民泊による農業体験
止観体験
史跡公園散策
三原山登山
外国人にインタビュー
座禅体験(満福寺・妙心寺法堂・建仁寺)
法話(妙心寺法堂・比叡山・青蓮院・薬師寺)
班別自由行動による歴史探索

イ 班別・集団行動を重視

文化遺産、文化財のグループごとの探検、鑑賞
一日乗車券を利用し、地下鉄やバスを使った班別活動を行った
公共の交通機関を利用した班別活動
小規模校であるが、古都(京都市内)を4・5名で散策することで、協力、助け合う態度の育成を組み込んだ。
舞妓の衣や化粧を体験したり、数珠作りを体験した。
1日目:公共交通機関を利用 2日目:タクシー利用
修養体験(青蓮院法話、抹茶、琴演奏鑑賞)
現地の大人の方との礼儀正しい接し方、コミュニケーションの取り方を重視した。(事前・事後)
京都・奈良ともタクシー班別活動を実施し、集団行動、公衆道徳を学ばせた。
博物館鑑賞マナー、宿泊、移動の際の行動を向上するための事前活動
半日タクシー 半日・公共交通機関を利用したグループ別見学
夕方から夜にかけてのグループ別自由散策活動
タクシーによる班別研修(京都)、徒歩による班別研修(奈良)
飛鳥でのサイクリング、座禅(建仁寺)
班別タクシー行動、テーブルマナー、ホテルのマナー、クラス別体験活動
学級別体験活動
学芸員の説明
二日間違うグループで行動した
1日目は自分たちだけでの班活動(奈良)
2日目はシルバーガイドさんと班活動(京都)
3日目はクラス毎に扇子作りや和菓子作りの体験活動を行った
漆器の絵付け
ろうけつ染め
班別行動の際に、あえてタクシーを使わず、公共交通機関を利用することとし、計画を立てた。
班別行動を通して、仲間との協力、責任ある行動がとれるようにする。
嵐山探索
感性の育成
マイバッグ活動、マイ箸活動、植樹活動
シルバーガイドさんをつけた。京都班別行動、同志社混声合唱団こまくさとの合唱交流
視察・見学の中に、心得や観点を明確にした。
京都では班別行動都市計画作りから行った
仲間意識、仕事分担、小集団の中での自分発見。
七宝焼き体験
トロッコ列車乗車
ラフティング、カヌー、グラススキー、パラグライダー、マウンテンバイク、ヨットセーリング、溪流釣り、林業、田植え、陶芸、アイス作り、イチゴ狩り、わさび漬けなど
そば打ち、漆工芸、トンボ玉作り、はんこ作り、散策など
ガラス細工、オルゴール作り、時計作り、そば打ち、おやき作りなど
ペンションのオーナーによるパン作り、ピザ作り、パスタ作りなど
ラフティング、キャニオニング、そば打ち、草木染めなど
アウトドア・インドア体験学習、ペンション(オーナー)別体験学習

班別活動、現地体験学習(ざるぼぼ作り)五平餅作り
食事のマナー講座、パンや餅作り、班別行動(見学)
上高地での自然散策、白馬でのラフティングなど体験活動。穂高での体験教室
自然散策、文化遺産見学、女神湖でのカヌー、マウンテンバイク、陶芸
農家との交流、班別計画による観光、ペンションオーナーとの体験
時計作り、ガラス作り、オルゴール作り、わさび漬け、ラフティング、ソーセージ作りなど
ラフティング、土笛作り、カヌーなどその土地で体験できるもの。
陶芸体験、そば打ち、リョーター体験、時計作り、オルゴール作りなど
京提灯作り体験
EXアドベンチャー
ダイビング
お好み焼き
京都タワーでの夜景を班別に見学
SKYガイドさんを頼み京都の文化・歴史に触れ見聞を広めた

ウ 人と人との触れ合い重視

外国からきている観光客と3人以上話をする。京の言葉を話して20以上メモする。
京都市内の班別活動において、地元のシルバーボランティアの方々とともに、公共交通機関を使って実施。
現地の方や外国の方と会話する活動を取り入れた。
インタビュー活動
クラス別行動で見学地を回るにより、事前からの計画や当日を通して仲間意識を育てられた。
青蓮院にて座禅、法話、抹茶、箏曲の鑑賞を実施。
事後評価
被爆者講話
タクシー運転手インタビュー
ホテル職員の講演
SKYガイドさんの班別行動による見学
京町家での活動など現地の人と交流した
3日目、大阪で体験学習を行った。(商人、下町散歩、コリアタウン、お好み焼き)
見学場所で挨拶をきちんとさせた。
ジオサイト巡り
西陣織体験
朝市での販売員との会話
挨拶文・御礼文の作成
山菜採り等
溪流釣り
落語クルーズ
シティホテル体験
和本制作
生活班の活用
学年の団結をより強める2日目夜の学年活動
ペンションオーナーとのふれあい。ざるぼぼ、ガラスアート、マイ箸作りの体験。上高地での仲間とのふれあい。
京都同志社大学のグリークラブとの合同演奏会
農家民泊、生活体験、農業体験

エ 研究・学習の深化

グループ研修に向けて、事前の学習が深まるよう「らくたび講話」をお願いし
京都・奈良の寺社や仏像の見方などを学習
保津川下り体験
神社参拝
学習のテーマ設定
課題解決
京野菜会社訪問
刺繍
平和をテーマとして調査活動を行ったので、深化させるため被爆体験講話や平和公園見学をした
一人最低でも一箇所事前学習で調べた内容を基にして現地で班員のガイドとして案内した
神戸での震災学習
椿油体験
祈祷体験
まとめ新聞の作成
総合学習の完成
殺陣体験

東海地区

ア 歴史や文化遺産等に触れる

平和記念公園で平和セレモニー、ガマ見学等平和学習の活動
宮島(厳島神社、五重塔・千畳格)を見学、平和記念資料館を見学
被爆者体験を聴く、震災について映像などから学ぶ
平和会館見学、神戸での防災関係(人と未来防災センター)見学
首里城見学、南部戦跡見学、元姫ゆり学徒隊の講話
国会議事堂見学
富士山樹海散策
平和記念資料館、防空壕体験、基地展望
自然環境に触れる体験プラン(マリン・サトウキビ収穫体験)
浅草寺、上野公園内美術館見学
吉野ヶ里歴史公園見学、まが玉作り
沖縄戦についての平和学習で、ビデオや講話を取り入れた
姫ゆり記念会館で講話と聴きとり学習
倉敷大原美術館見学
劇団四季鑑賞
被爆証言講話と被爆ピアノコンサート
造幣局の工場見学

イ 班別・集団行動を重視

平和公園、USJ、コース別の3回にわたり、班別で行動するよう組んだ
公共交通機関利用の際や、見学地においてマナーを守り責任ある行動を取る
琴平で地元名産のうどん手打ち体験と食事
第五福竜丸に関する講話と見学
長崎市内の路面電車を利用した班別自主活動を行った
広島市・神戸市・大阪・福岡市内等全行程で、班別行動
シュノーケリング・ダイビング・とんぼ玉作り・サターアンタギー作り
美ら海水族館・国際通りでの班別行動
いかだ乗り、磯釣り、塩づくり、ウォークラリー、草木染、備前焼
ニライカナイ体験学習施設での体験学習
北八ヶ岳登山を通して、班や学級の団結力を高める
大阪でキャリア教育に関連した班別の施設、企業訪問
東大阪市内町工場での体験学習清里ペンションでの語る会
国際通り班別自由散策
小集団で東京都内自主研修
陶芸や武者絵染色体験
清里ペンションでの語る会、牧場体験
ガタリンピック体験

ウ 人と人との触れ合い重視

読谷村での民泊により、現地の方との触れ合い
広島の夕食を班行動で、お好み共和国でとることとする
班別自主研修では、大阪周辺の大学生ボランティアについてもらい交流を深める
自然文化体験活動(マリン・琉球ガラス等の体験)
辺野古湾市自治会の方との交流学习
触れ合い学習「ニライカナイ」を利用した活動
福岡市、北九州市内の企業を訪れインタビューまたは、体験活動
USJでクルーインタビューをし、職業、職種を考える
頭島民宿で、底引き網とひもの作り体験、島民との触れ合い
米軍兵の家族との交流。元ひめゆり学徒隊との触れ合い
阪神淡路大震災体験を聞く
被爆及び震災被害体験者の講話や、企業研修先での触れ合い等
漁村でのアジの開き、釣り、漁船乗船体験
大和ミュージアムでの戦争体験の足跡を知り平和を願う体験
大阪市鶴橋のコリアンタウンでの講話とチャンゴ体験。天満天神繁盛亭での落後体験

エ 研究・学習の深化

平和学習・防災教育・人権教育

資料館での調べ学習

沖縄歴史学習、「基地」を訪れた

平和集会を現地で行った。調査活動に基づいて現地で聞き取り等行う

原爆資料館や防災未来センターを感がく市、ワークシートに記入、テーマごとに発表

文化祭での平和劇・合唱コンクール

水揚げされた海産物の関東での流通経路について

平和・人権同和教育をテーマとした講演会とフィールドワーク

平和学習・防災教育・人権教育

爆心地を中心としたフィールドワークと平和学習

放射線影響研究所訪問

海洋体験(シーカヤック、底引き網漁体験)

海遊館飼育係の話を聞く

大阪・神戸で自分の地域に関するアンケート調査

近畿地区

ア 歴史や文化遺産等に触れる

(沖縄)

姫ゆり記念館、平和の礎、首里城、佐喜眞美術館、美ら海水族館

ガマ体験、農業体験

料理体験、シーサー作り

マリン体験

(九州)

ペーロン体験

ガタリンピック

九州国立博物館、太宰府天満宮

知覧特攻平和館

長崎爆心地での平和学習

(信州・関東)

アルペンルート

スキー実習

高山市内

イ 班別・集団行動を重視

(沖縄)

民泊

マリン体験

国際通り班別行動

(九州)

長崎市内、鹿児島市内班別活動

熊本グリーンランド班別活動

ハウステンボス班別活動

漁業体験

(信州・関東)

スキー実習

ウ 人と人との触れ合い重視

(沖縄)

離島での民泊

マリンスポーツ

農業体験、収穫物の加工

語り部さんとの交流

(九州)

民泊による交流

平和ガイドと班別活動

被爆体験講師との交流

松浦ほんなもん体験
ファームステイでの交流

(信州・関東)
スキースクール・インストラクターとの交流

(中国・四国)
インストラクターとの交流
農業漁業体験

エ 研究・学習の深化

(沖縄)
沖縄戦の事前学習と現地学習の深化を重視した活動
平和新聞・演劇科
平和祈念集会
壁新聞作り

(九州)
特攻隊にかかる事前学習
鹿児島平和学習について事前学習

(信州・関東)
アルペンルート、黒部ダムについての事前学習

(中国・四国)
事前に自然・環境学習

5 修学旅行実施にあたりJRや旅行会社への要望

JRへの要望
関東地区
できるだけ常磐線、新幹線に乗っている時間を短縮したい。
特別列車で他県の学校に挟まれ、トイレが使いづらかった。
行きも常磐線ではなく、高速バスで東京まで行けないか
東京までの集約列車の時間がかかりすぎるため、1日目の活動時間が短くなってしまう。
帰りも京都発2:00頃にできれば活動制限が小さくできる。
今年度は、震災の影響で、ぎりぎりまで東北新幹線を利用できるかどうかかわからず、とても心配した。
結果として、当初の計画どおり実施できたのでよかった。
喫煙車両にならないようにしてほしい
列車待ち時間の短縮
実施時期が梅雨時で、3日間とも雨天決行。さらに総体の直前(2日前)実施ということで気持ちの切り替えに苦労した。
昨年、今年とも土日の週休日に重なり、振替休業をとった。日程的にバランスのとれたローテーションを要望したい。
JR新幹線の座席割りが出発1週間位前に急に変更になり、慌ててしまったので、変更がある場合には早めに連絡してほしい。
京都駅のアナウンスが恫喝する内容 不愉快
列車での隣接学校を同じ地区にできるとありがたい。隣接学校、事前にわかるとよい。
同乗する中学校名の公開と東京駅での乗り継ぎ時間の短縮。
東京駅での乗り継ぎが1時間以上のロスタイムなので改善が必要。
新幹線の乗り継ぎ、特に帰りの時間ロスが多い改善願いたい。
帰りの新幹線の乗り継ぎ、1時間待ちを短縮できるよう改善してほしい。
新幹線座席割りを早く知らせてほしい。生徒指導上隣の車両の学校名を知らせてほしい。
修学旅行用の臨時新幹線を出していただきありがたいです。
小山駅から東京駅までの新幹線を指定席にしてほしい。
早め早めの行動で、駅での待ち時間が長い
東京駅での待ち時間を短くしてほしい
京都、新大坂の便を増便願いたい 1カ所見学地増
学校の都合に合わせた時刻が欲しい
もっと早く乗車時間を決め、連絡してほしい
群馬県中体連大会期間なので日程期間を伸ばす
新幹線の団体専用列車にある自販機は使用できないようにしてほしい。
新幹線の車両は、禁煙車をあててもらいたい。
新幹線(団体専用)の号車割りの際、トイレ・手洗いが1ヶ所しかなく、生徒が混乱してしまった。配慮願いたい。
1日目、新幹線の出発時間が早すぎる。あと30分遅いと朝の集合が楽になる。 (本校では大宮駅までの交通手段がバスしかない。職員も前日、ホテル等に宿泊した人2名がいる。)
トイレのある車両を増結していただけるとありがたい。
新幹線の座席数にゆとりがほしい。
新幹線料金、宿泊料、手数料等を低料金にし、保護者の負担軽減を図っていただきたい。
他校との接触への配慮
小規模校での臨時列車の対応を希望
新幹線の発着時刻への要望
秋の修学旅行でも号車を貸し切りに出来た方がよい。
新幹線以外の交通機関の遅れへの対応 ・保護者同行が必要な場合の手続き
生徒車両と一般乗客車両との区別
臨時列車の料金を下げてほしい。
熊谷駅からの新幹線利用
専用列車から新幹線に乗り換える時の待ち時間の短縮
乗り換え等の待機時間の縮小、臨時列車の東京駅乗り入れ
新幹線で一緒になる学校を教えて欲しい(トラブル対策)
小規模校でも新幹線トイレを学校単位で使用できるように
混乗を避けるか、緩衝地帯を設けて欲しい
新幹線初めての生徒もいる。車窓の簡単なガイドで車内アナウンスしたらよいのではないか。
新幹線が特別専用列車ではなく、一般の方といっしょだったので、これは避けたい。
学校の最寄り駅から東京駅直通の電車(臨時)があると助かる。
新幹線内の座席の割り振りを工夫、考慮してほしい
東京発の関西方面の新幹線に9時頃出発のものがほしい。7時台は早すぎて保護者の負担が大きい。
あらかじめ新幹線の座席の前後の学校がわかれば教えてほしい

JRへの要望

関東地区

新幹線のトイレの位置を考えて学校の配置をしてほしい
混乗列車における車内販売の中止はできないか
臨時列車のため仕方がないと思うが、時間的にもう少し短縮できるとよい。(バスの方が速い・・・行き)
修学旅行列車は座席数が少なく(ゆとりがないので)、緊急時の職員打合せや
急病人が休養できるような配慮があると助かるのですが！！
運行時間をもっと短縮してほしい。(特に帰り)
筋ジストロフィーの生徒が参加する関係で、洋式トイレの設置の列車または、ポータブルトイレ設置を希望したが、
千葉支社での対応にはあまり誠意が感じられなかった。(最終的には解決)修学旅行においても、
身障者への配慮がなされるべきである。
修学旅行列車において、余裕をもった座席数を。
複数校で利用する際、学校間に職員を配置できるよう車両確保等の配慮を。
仕方がないことですが、修学旅行専用列車を使うと時間のロスが大きい。
JR京葉線の利用に対して、日曜日出発ではなく、平日でも可能なようご配慮いただきたい。
新幹線の予約を一年前にしてほしい。
変更したこともあり、全員が同じ新幹線に乗れなかった。全体を考えると同じ便で行けるよう今後考えてほしい。
団体列車では、学校間の隙間を作っていたいただけと助かります。
連絡が今回遅かった。
列車の日程の早期決定を願う
土日の運行をはずしてほしい
車両を他校と分けてほしい、京都、奈良間の公共交通機関の確保、宿を貸切にしてほしい
ダイヤの急な変更は避けてほしい。
一般客と一緒に車両で新幹線に乗るのは、できれば避けたいです。
一般の喫煙車両が割り当てられたが、一部気分を害した生徒がいた。
修学旅行の団体車両については、喫煙車を除くなどの配慮をしてもらいたい。
喫煙車両を修学旅行専用列車に使用しないでもらいたい。
なるべく少ない車両で、1つの学校が納まるよう配慮してほしい。
4学級で4両にまたがったことで教員の配置が大変だった
全く座席の余裕がなく、他校と隣り合わせでしたので御一考いただければ幸いです。
東京駅、京都駅での集団待機場所の確保
鉄道代をさらに下げてくださいと助かります
できるだけ同一車両に学校を固めてほしい
部活動の大会のため、出発時の行動が同一にとれない生徒に対する金銭面での保障をJR側で
できないだろうか。復路は保障有りと聞いているので。
年によって出発時刻が2時間異なる事があり、コースが大きく変わってしまうので考慮してほしい。
一般客との混乗は難しい。2dayチケット(900円)は申し込み締め切りが早すぎる。
5、6月に実施できるとありがたい。
出発時間帯を8時～9時にしてほしい。帰りの時間を選べるようにしてほしい。
喫煙席は外してほしい。臭いで生徒の具合が悪くなる。
京都駅での乗車、扉1カ所(グリーン車)のため、時間が足りない。
休日の割り当てだと宿泊費が休日料金になってしまうので、配慮してほしい
日にちを選びたい。
東京駅からの指定席確保ができるとよい
キャンセル料を可能な限り安く
一般客と別の車両で。一般客からクレームがあった。
費用を安く、新幹線の待ち時間に無駄がある。

東海地区

最寄のJR駅に特急の臨時停車を申請しているが、許可が出るまでに時間がかかりすぎる
今回は素早い対応をしていただき、日程・費用の変更なく実施できて良かった
少人数でも(6名)行事ならば割引を適用してもらいたい。
大震災により、行先変更となったが、連合体適用が受けられず費用負担増となった。柔軟な対応を希望する。
4月初の段階で、JRは連合体制度の利用を、旅行会社はキャンセルを認めてほしかった。
震災のために、広島・大阪方面への新幹線割引を適用できたが、来年度もして欲しい。
広島方面へのJR特急料金割引を今後も望む。
天候の影響で新幹線が遅れ、代替列車が発車してしまった。乗車を確認して欲しい。
当初往路高山線利用を予定していたが、直前になり座席確保ができずバスとなった。
例年、飛騨では難航か同様のことがあると聞く。小規模校や旅行会社によるものと言われる
このような不公平がないようにしてほしい。
四国への変更であった。大阪以西の本数増や資料提供が欲しい。

JRへの要望

近畿地区

変更時における料金について柔軟に対応願いたい。

集約列車の通年運航をお願いしたい

一般客と混乗を避けてほしい(新幹線の席割)

関西～鹿児島島の直行列車の利用を希望。

自然災害等不可抗力による変更発生に対する柔軟な対応をお願いしたい。

集約列車の時刻(時間帯)をもっと幅広くお願いしたい

集約列車をもっと使いやすくしてほしい(費用、本数)

天災等トラブルによる緊急事態に対し、修学旅行の特性を理解した上で対応いただきたい

(運行中止時の臨時降車駅における待機場所等の配慮)

往復とも同一号車、座席を望む(新幹線)

座席割の車両またがりを極力少なくしてほしい。

新幹線乗車駅までの在来線が混雑、増結等の配慮をお願いしたい。

旅行会社への要望

関東地区

人数、男女比等に対応した宿舎の選定

生徒の安全面に配慮した宿舎を準備してほしい。

学校の要望やこちら側の気づかないところまで細やかな配慮をしていただき、感謝しています。

学校生徒数に応じた宿舎の割り当て(男女のフロアが同じにならない)

事前準備の時間を多く取っていただき、生徒主体、プロセス重視の修学旅行にしたい。

震災等の災害に対応する保障制度

見積もりを出してもらう際、業者によっては、宿の確保が他社より遅くなるため、契約開始が遅れ、

毎月の積み立て額が大きくなり、保護者の負担が大きくなる。早めの宿の確保をお願いしたい。

生徒の実態に合った引率を:けが、肢体不自由、不登校気味

本物の体験活動を掘り起こすのに苦勞した。また、学校だから体験できる活動のリストをグレードアップする必要がある。

「事前打合せ」と「添乗」の参加者(エージェント)が同一であること。

生徒一人に対する企画料が高い。担当との細かい打合せが取れなかった。(電話連絡のみが多かった)

本願寺関連の行事のため希望旅館が確保できなかった。宿舎状況も調査してほしい。

旅行代理店の取り扱い手数料や企画料が高すぎる

情報の提供をお願いしたい。

インフルエンザ等集団で欠席する場合の料金増

安全面、学習面の確認と援助(例:班別行動のコース)

添乗する者が事前の打ち合わせを担当する。

料金が高いので検討が必要と思われる

旅行業者の企画料が高いと思う。もう少し安くならないものか。

旅行費用の増加が懸念される

旅行業者による臨機応変な対応が、スムーズな体験活動等につながった。

不測の事態が起きたときの対応

ゆったりした日程、しっかりした学び

5万円台で費用をおさえたい。

宿泊ホテルの精選

小規模校のプログラムがあるとよい。

ホテルと食事を充実したかった。

安価な予算での実施を。

費用をできるだけ安くしてほしい

体験活動中の生徒の安全確保

東海地区

添乗員を付けなくて費用のコスト削減を図った。現地でチケットを渡してくれる人がいると助かる

行程に天候により内容の差が生じないような行程プランがあるといい。

費用を少なくするための工夫や特典

24年度も関東地区から関西地区への変更の可能性もあり、キャンセル料は取らないでほしい

4月当初の段階で、JRは連合体制度の利用を、旅行会社はキャンセルを認めてほしかった。

良質な体験を行うために、旅行業者はいかに良質な提案を行うかと努力してほしい

旅行会社への要望

近畿地区

安心安全な旅行のために熟練の添乗員が一人は必要。
色々な学習が組み込める仕向地の提案を希望。
本年、急な方面変更にも関わらず、誠意とスピードを持って対応してくれ感謝(複数意見あり)
少人数グループ単位の活動について、より学習効果のある情報提供を期待
丁寧なマネジメントを期待
添乗員には行程を理解した上で機敏な動きをお願いしたい。
旅行会社間の打合せを確実、詳細に行ってほしい。
リスク管理の事前提案をお願いしたい。

航空機関係(近畿地区)

学校の立地上、関空は遠すぎる
鹿児島への航空運賃について、もう少し割引を検討願いたい
航空機にも修学旅行の意義を理解いただき、集約便の設定を検討願う
予約(スケジュール)を早く確定して欲しい
便減少により発着時間が予測困難であるため活動時間に制約がある。

旅館

関東地区

宿泊する宿の入浴施設が、なるべく地下にない方がよい。
温かい食事が食べたい
1室の宿泊人数や食事から考えて、宿泊料金が低いのではないかと考えた。
宿泊施設の管理が容易な点

近畿地区

宿舎部屋割りの配慮を(複数階の使用や一般客と同フロア等を避けてほしい)
宿舎において保健部屋を低料金で提供願いたい。
宿舎の食事が、一般のプランより見劣りすることを感じることもある。

その他

関東地区

安全克つ計画的に進めることができ感謝
情報の提供と学校の要望に応えるための努力
僻地ではない、少人数の学校への対応
とても親切で、細やかな配慮をしていただき、助かっています。
現在も行われているであろう未来像検討の継続と聞き取り調査の実施
土産物屋の中には、やたらと売りつける、強要するなどマナーの悪い業者がある。指導すべきである。
京都は修学旅行生がたくさんいました。事故やトラブルが少ない配慮がありがたい。
学総大会の前日が修学旅行だったので大変だった。
7月の修学旅行は避けて欲しい。学期末の多忙な時期のため
7月の実施は暑さを考えると避けた方がよいと思います。
安全に修学旅行が実施できることが一番だと思います。よろしく願います。
緊急時の対応等事前に分かっていることが容易に確認できるようになっていると助かります。
東北地方の安全性を積極的にPRする
安全第一に不手際のないように
京都での受け入れ体制はよい。
お世話になり、ありがとうございました。

近畿地区

お弁当をもっと美味しくしてほしい(価格の割には良くない)
取消、変更時のキャンセル料が高い、配慮を。
全般的に費用の見直しをお願いしたい(まだ割高)

V まとめ

新学習指導要領によると、学校行事の内容の取扱いについて、「～また、実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなど振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」等述べられている。

特に体験活動については、『その場限りの活動に終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後には体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り文章でまとめたり、発表しあったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要がある』となっている。

今回の調査はこれらをふまえて、毎年継続調査をしている、[修学旅行実施概況]と[感性をはぐくむ修学旅行の取り組み]についての調査をする。

関東地区(1,208校)、東海地区(715校)、近畿地区(986校)、合計(2,909校)の学校の協力を得て調査をする。特に愛知県については愛知県小中学校校長会、修学旅行特別委員会の協力を得てまとめることができた。

今年度は3.11の影響を受け方面変更、時期変更する学校が多く見られ、関東地区では約5%の学校が変更し、東海地区では57%の学校が変更、近畿地区では31%の学校が変更した。

関東地区の場合は会津方面から信州方面に変更した学校が多く見られた。東海地区では昨年度まで約80%の学校が東京中心に関東方面へ来ていたが、24%に激減し、近畿地区でも、約35%の学校が関東方面に行っていたが、今年度は6%まで減少する事となった。

また、三地区とも今年度は9月実施という学校が増え、5～6月のに実施していた学校が時期を変更して実施した結果と考えられる。

《感性をはぐくむ修学旅行の取り組みについて》

修学旅行を実施するにあたって、訪問地で生徒に最も期待する内容については、昨年度は「歴史・文化・自然等に直接接触する事による学習効果」を最も期待していたが、今年度は「班別体験、集団行動、マナーを重視した活動を重視した学校が最も多く見られた。

具体的な活動内容については、これまでに比べて活動の流れを感じるものが多く見られるようになってきている。学習の一環としての捉え方を各学校で工夫しているのではないだろうか。

各学校で取り組む活動内容を列記したので是非、今後の取り組みの参考としていただきたい。事前・事後の活動に関しても班を中心としての役割分担、学習内容が中心となっている。

感性をはぐくむ修学旅行を実施するため、各学校においては生徒の主体的な取り組みが必要不可欠なことです。学習活動に友といかに参画することができるかにより、「気付き、考え、表現し実践する力」が培われるものと思われます。

体験活動についてはその場限りの活動でなく、事後の活動から体験を共有する事の重要性が挙げられています。活動時間の縮減が行われる中、各学校における一層の工夫が望まれます。

平成23年度研究調査報告
修学旅行の実施状況調査
修学旅行の課題調査『感性をはぐくむ修学旅行』の取り組みについて

平成24年3月
公益財団法人全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
Tel:03-5275-6651 Fax:03-5275-6653
E-mail: shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com>